

## 5. 再開発事業

### (1) 再開発検討の背景

本院は平成5年に中之島から現在の場所に全面移転してきた。移転後から今日まで医療ニーズは大きく変化してきたが、移転当初の病院構造のままとなっているため、時代のニーズに合わなくなってきた。狭隘化は顕著であり、移転時には想定していなかった大幅な医療スタッフ増により休憩室・当直室等のスタッフスペースが不足し、職員は非常に厳しい環境下で医療に従事している。診療スペースの不足も深刻な状況にあり、限られたスペースで院内改修を繰り返し医療の変化に対応してきたが、その工夫も限界に達している。また、全面移転してきたことにより、建物内部の配管等の劣化が外来・中央診療棟、病棟と同時に進んできている状況にある。

そのような中、超高齢化社会を迎える将来は更に医療ニーズが変化していくことが予測され、本院は高度急性期病院としての役割、臨床研究中核病院としての役割、拠点病院（地域災害拠点、地域がん拠点等）としての役割を担っていく必要があることから、新しく病院を創りかえていく必要があるため、再開発の検討を開始した。

### (2) 検討経緯

（平成25年度）

院内に再開発委員会、事務組織として再開発企画整備室を立ち上げ、検討を開始した。

再開発委員会を3回開催し、再開発スケジュール、敷地利用計画案、債務償還計画の検討を行った。

（平成26年度）

・再開発に係るコンセプト及び将来構想の検討

具体的な再開発計画を策定していくためには、「診療、教育、研究、地域貢献・社会貢献、国際化、運営」の観点で本院の将来構想を策定する必要があること、また将来構想を踏まえてどのようなコンセプトのもと再開発計画を策定していくのかを検討する必要があることから、再開発委員会の下に、「再開発に係るコンセプト策定WG」を立ち上げた。当該WGは26年度に8回の開催を重ね、将来構想については、概ね策定が完了した。

・創立100周年世界適塾構想会議病院構想WG

学内で立ち上がった「創立100周年世界適塾構想会議」の下に「病院構想WG」が立ち上がり、医病・歯病両病院の再開発計画を踏まえた病院の将来構想について、移転の可能性、医病・歯病統合の可能性、両病院の将来構想等について、理事、副学長、理事補

佐等を交えて議論をおこなった。当該WGは26年度に7回の開催を重ね、病院構想WGの提言書をまとめあげた。

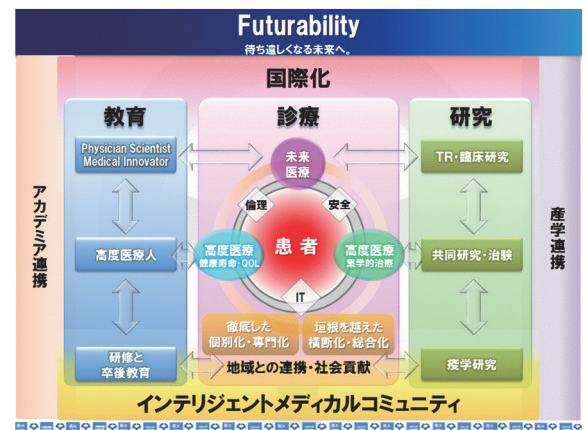
他の立地への移転の可能性については、医療圏の問題、医学部との関係、資金計画の観点から、困難な状況にあるとの結論に達し、今回の再開発については、平成5年移転時の整備計画書を踏襲し、移転計画時に設定した将来の拡張スペースを念頭に検討を進めることとした。医病・歯病統合の可能性については、両病院が有機的に連携することとし、現状の立地条件下で、両病院の機能を高めていくこととした。

・劣化診断調査

再開発計画を策定していくうえでは、現在の建物劣化具合を正確に把握する必要があることから、外部委託を行い下半期で電気設備、機械設備、配管等の劣化診断調査を実施した。

（平成27年度）

再開発に係るコンセプト策定WGで前年度に引き続き再開発のコンセプトについて議論を行い、「Futurability 待ち遠しくなる未来へ。」をコンセプトとして掲げることとした。また、診療、教育、研究、社会貢献・地域連携、国際化、運営の6本の観点で将来構想をまとめあげた。（下図参照）



再開発マスタープランとして、全棟建替え計画4案、既存棟大規模改修を含めた計画4案の計8案を、再開発委員会の下、「Q:クオリティ」「S:サービス」「C:コスト」「D:デリバリー」の観点から評価をした。その中から、全棟建替え計画1案、既存棟大規模改修を含めた計画1案の計2案で比較検証を行いながら基本計画の策定を進めていくこととした。併せて、モノレール脇窪地の有効利用について調査検討を行い、再開発に伴う駐車場整備計画を策定した。（平成28年度）

大阪府の将来の人口動態・傷病別推移等を踏まえ

た将来の医療活動規模、想定される医療ニーズについてのヒアリングを院内全部門に対し実施したうえで、病院長・副病院長・病院長補佐からなる再開発コアWGを設置し、再開発基本計画（病院規模、各部門規模、各フロアの構成、部門動線、機能強化部門）の骨格を策定した。

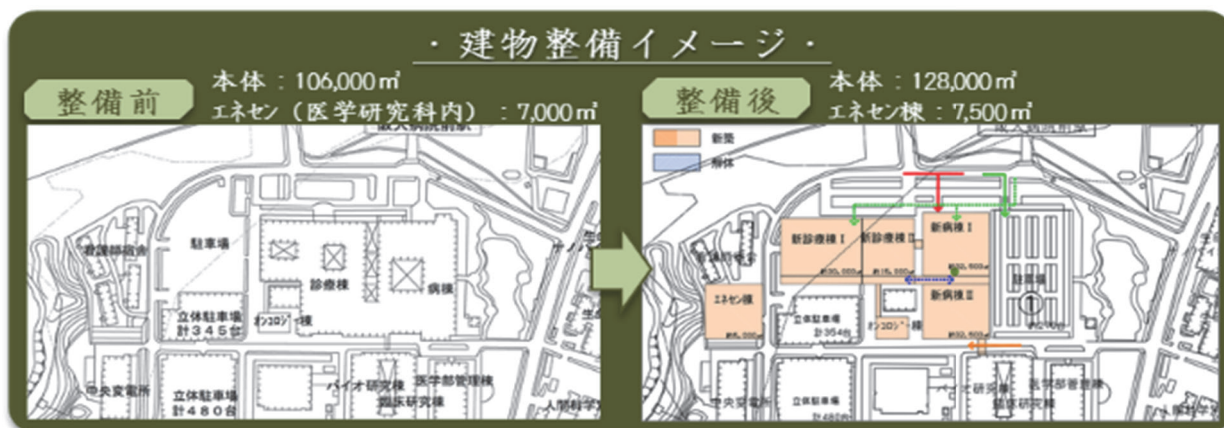
再開発計画の概要（将来構想・コンセプト、敷地利用計画、資金計画・スケジュール）について、経営協議会に諮り了承を得た。

（平成 29 年度）

これまでに策定した再開発基本構想・基本計画に基づき、各部門にヒアリングを行い、部門別の基本計画を策定した。

### (3) 敷地利用計画案

北側に順次改築（新診療棟Ⅰ→新診療棟Ⅱ→病棟Ⅰ→病棟Ⅱ）していく予定としている。



### (4) 資金計画・スケジュール

既存建物の債務償還が減少してくる平成 29 年度から再開発資金を貯蓄し、施設整備費に充当する計画としている。また、再開発期間を 4 期に分けることで、債務償還の平準化を図り安定的な病院経営が可能な計画としている。

			再開発Ⅰ期				再開発Ⅱ期				
築26年	築27年	築28年	築29年	築30年	築31年	築32年	築33年	築34年	築35年	築36年	築37年
H30	H31	H32	H33	H34	H35	H36	H37	H38	H39	H40	H41
基本設計		実施設計	新診療棟Ⅰ期、エネセン棟			移転及び 既存棟一部解体	新診療棟Ⅱ期		移転及び 既存棟一部解体	既存棟一部改修	
			再開発Ⅲ期			再開発Ⅳ期					
築38年	築39年	築40年	築41年	築42年	築43年	築44年	築45年	築46年	築47年		
H42	H43	H44	H45	H46	H47	H48	H49	H50	H51		
		新病棟Ⅰ期			移転及び 既存棟一部解体	新病棟Ⅱ期		完成			

※新病棟の整備時期については、財政状況を勘案し改めて検討。

### (5) 今後の予定

- 平成 30 年度：基本設計
- 平成 31 年度：基本設計、平成 32 年度概算要求
- 平成 32 年度：実施設計
- 平成 33 年度：新診療棟Ⅰ着工